

節分、立春に思う・・・ ～突然大きな鬼があらわれました。鬼は～そとっ！～

本来、節分とは季節の節目である「立春」「立夏」「立秋」「立冬」の前日のことをいい、一年に4回あります。旧暦では春から新しい年が始まるとされていたため、「立春」前日の節分は大晦日に相当する大事な日となっています。昔は季節の分かれ目、特に年の分かれ目には「邪気」（人に害を与えようとする心、悪意。病気を起こす悪い気）が入りやすいと考えられており、様々な「邪気祓い」の行事が行われてきています。「豆まき」も新年を迎えるための邪気祓い行事のひとつです。鬼は邪気や厄の象徴とされていて、形の見えない災害、病、飢饉など想像を超えた恐ろしい出来事は鬼の仕業とされていました。

また、鬼を追い払う豆は、五穀の中でも穀霊が宿るといわれる大豆です。煎った大豆を使います。本来、家中の戸を開け放し「鬼は外！福は内！」と大きな声で唱えながら家の外と内に豆をまきます・・・。

といったことを確認しました。一生懸命に鬼の面や豆を入れる三方を作っている子どもたちを見ていて、最低限の知識は知っていなければと調べました。柊(ひいらぎ)や 鯛の頭・・・なども調べましたが紙面の関係で割愛します。

ちなみに「茶摘み」で歌われる「♪夏も近づく八十八夜・・・」も台風や大雨に注意とされる二百十日もこの「立春」から数えて88日目、210日目ということであり、多くの雑節の基準となっています。突然現れて暴れる鬼さん「先生の言うことをきているか～」って ↑

幼稚園に勤務するようになり、季節を感じることでできる行事が多く、忘れ去りかけていた伝統や慣習に心洗われることが多いなあと感じています。発達段階に合わせてしっかり伝えていきたいと思っています。

鬼がやってきたときのために三方を作っています。自分たちで豆まきをしようと各組ごとに工夫して準備していました。ところが・・・



突然、園庭に現れた鬼さん！がっしりしていて恐そうでした。「野菜嫌いの子を食べちゃうぞ～」「先生の言うこときかない子は誰じゃあ」



れもん組：給食にも慣れてきて笑顔いっぱい

園務員さんが素敵な壁面飾りを作ってくれています。ここにも「春」がやって来ています。

